

せのがわおひさま市民共同発電所総会と見学会

2014年3月15日(土)

去る2013年10月4日(金)～6日(日)に福島りょうぜん市民共同太陽光発電所と福島第一原発の被災地を見学してから約半年。今度は、昨年5月に発電を開始した「せのがわおひさま共同発電所」の見学と交流会に参加した。合わせて広島市内、原爆ドームと平和記念資料館見学も行った。



3月15日(土)、午前6時過ぎに自宅出発、新大阪7時53分発のみずほ603号に乗り、瀬野駅に10時前に着く予定であった。広島駅に着き、跨線橋を通過して山陽本線上り方面のホームに降りると、白市行1538Mがもう入線していた。「おやあ、ドアが半開き。」と電車に近づいてみると「手動」となっていた。この電車は手で押し開ける形式だ。車内に3人腰掛けて出発を待っているが、定刻を過ぎても発車しない。「海田市(かいたいち)駅の踏切の安全確認のため停止中です」とアナウンス。定刻を15分ほど過ぎて発車した。



19分の乗車で瀬野駅に着き、駅から北側を見ると、北側の丘に造成された住宅地に続くスカイレールが延々とつながって見えてきた。ゴンドラだ。てっきり股座式モノレールと思っていたが、懸垂式ゴンドラが登っていく。遊園地のようながこれはそんな小さな規模のものではない。帰宅後調べるとスカイレールサービス(株)の運営、1998年(平成10年)開業、営業距離1.3km、正式名称「広島短距離交通瀬野線」愛称「スカイレールみどり坂線」という立派な交通システムだ。



鉄道ファンには有名な「セノハチ」は、ここ瀬野駅と八本松駅の間急こう配区間だ。「瀬野機関区があった場所は、今はどうなっている・・・。」とホームから見渡すと、駅舎北側の広島よりにそれらしいスペースが見えたが、今は自動車の駐車場になっていた。後で地元の方から「確かにそこが昔機関区で、機関車が置いてあり、私の父の職場でした。」とのこと。では今、セノハチを登る貨物列車は後押し

機関車無しで走行するのか、それとも別の場所から機関車がやってくるのかと思っていたが、後ほど疑問は解ける。

駅近くの喫茶店へ入った。「有限責任事業組合せのがわおひさま共同発電」の総会と交流が行われた。

発電所建設地は、元々は田んぼだったこともあり地盤が軟弱で架台の設置に苦労したこと、重機が入る搬入道路がないため、手渡し戦術でパネルや資材を運び込んだなどの話を聞いた。「線路の側なのでパネルに鉄粉がかかって、きれいにしなければならないんです。」とも話された。その言



葉は現地を見て理解できた。



この後現地へ。設置場所は線路から 5m 程度の近さ、線路からわずかにあぜ道一本を隔てた空き地だった。

黒々と輝くパネルがずらりと並んで、折からの快晴、太陽光を十二分に浴びて、発電メーターの回転子は景気よく回っていた。

太陽光パネルが並んでいる敷地のすぐ側の複線が、有名なセノハチ勾配。まさに八本松に向けて登り始めるという場所だ。往来する列車は 10 分をおかない。

「ほら、坂の下がカーブでしょう。だから下りの列車はここでブレーキをかけて通るんです。」なるほど、パネルが鉄粉を浴びるのはそのせいかな。そこで、パネルを見てまわると確かに線路から遠い位置のは表面がきれいだが、線路に近い所のは埃を乗せている。

カメラを構えて待った。長い貨物列車の後尾に付いた青い機関車が眼前を通る。桃太郎のマーク付き。これが広島車両所所属 301 号機(瀬野八用)だった。シャッターを切りながらおもわず「桃太郎、がんばれよ」とエールを贈った。ゴウゴウゴウゴウと地鳴りをさせて後補機付きの貨物列車は坂を力強く登っていった。

現地見学でソーラーパネルの稼働ぶりを見られた上に個人としてセノハチ、301 号桃太郎の元気な補機姿も見られて感銘深く、皆さんと共に発電所を後にした。

次は原爆ドームと資料館。広島電鉄で行くことになった。広島駅前から江波行き単車に乗る。1 両での運行は「単車」とされ、3 両つながっているのは「連接車」と表示される。原爆ドーム前駅は 10 個目の駅。

快晴の青空をバックの原爆ドーム。初めて見る姿に手を合わせる。今まで祈りに来られなかったことのお詫びをする。1945 年(昭和 20 年)8 月 6 日午前 8 時 15 分、この上空約 600 メートルで TNT 換算 15kt のウラン 235 形式の原子爆弾が、人類史上初めての大都市上空核爆発を起こし、10 万人余りの人命を一挙に奪い、おびただしい被災者、今なお後遺症に苦しむ被害者を作った。

今日の広島は暖かく雲もない青空。我々はドームと元安川に沿って歩き、平和記念資料館へ向かった。その敷地内の祭壇で再び合掌、瞑目。お念仏を唱えた。ああやっと広島で祈りを捧げることができたとのほっとした思い

の元に資料館へ入る。海外からの訪問者も多く、各国の言葉が聞かれる。黒こげの弁当、三輪車があった。大やけどを負ってさまようボロボロで血まみれの人々の人形。教科書や平和教育資料で使っていた写真の現物がここにあった。原爆は現実にあったのだと改めて痛感した。



午後 3 時半ごろに資料館を出た。

広電の接続車に乗ろうと停留所で、単機運転車はやりすぎす。接続車はきっと LRT だろうと期待して乗ったら床は高い。ボギー台車の車両だった。ちょっとがっかり。

朝早くからの見学・交流会でしたが、充実の一日だった。

(CASA ボランティア 古畑 等)

